

# 報 寺 敬 覚

7 月号



月刊 ● 敬覚寺報

〒177-0032 東京都練馬区谷原6-8-12  
TEL 03(3996)1833 大江義宏

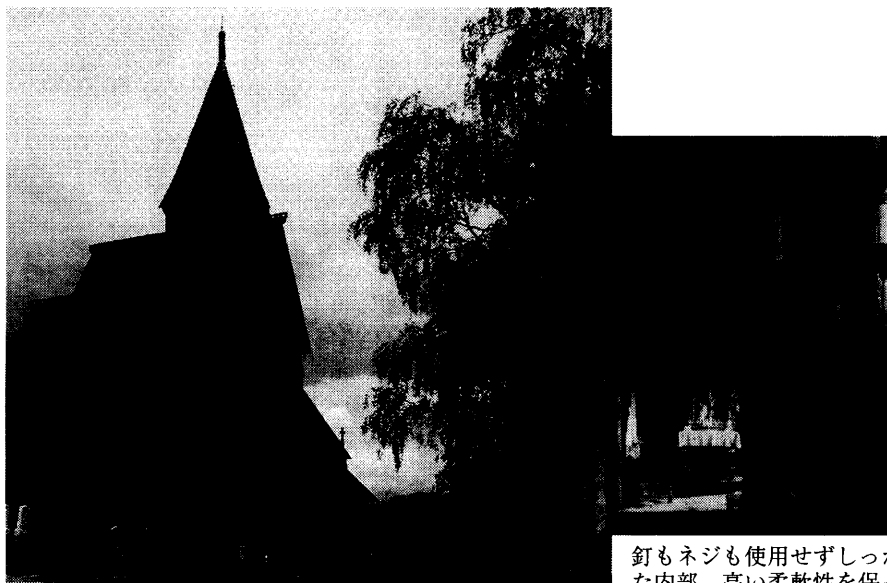
▼二〇〇二年七月一日▲

## ● ノルウェー王国 ウルネスの木造聖堂

ノルウェー語でスター  
ヴヒルケと呼ばれる木造  
聖堂はかつて、千二百余  
りの数を数える程の隆盛  
を見ました。木材の腐食、  
落雷、火災等を経て、現  
在残されているものは二  
十八基にすぎません。  
北ヨーロッパ独特の木  
造聖堂が残されるウルネ  
ス村はノルウェー中部、  
ノルウェー海より奥深く  
入り込むフィヨルドに突  
き出した細長い土地にあ  
ります。「スタービルケの  
女王」と呼ばれる聖堂は  
聖堂内部のすばらしい装  
飾に対して与えられた賛  
美の言葉でもあります。  
十二世紀前半に建設さ  
れたと考えられるこの聖  
堂は最古のスタービルケ  
であると共にもっとも  
保存状態の良い建物の一  
つでもあります。この聖  
堂へ行く唯一の交通手段  
は船であります。

うけつがれるもの うけついでいく心

—— 世界遺産 ——

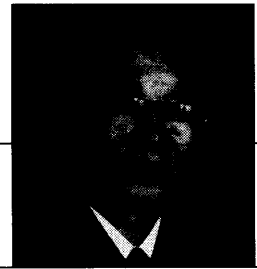


釘もネジも使用せずしっかり支えられ  
た内部。高い柔軟性を保っている。

# ハワイ開教・その感動

ハワイ別院輪番

川路 広美



ハワイに於ける私共の伝道活動の一つに、入院患者の見舞いがあります。勿論患者の依頼や、家族の同意などを必要としますが、とても大事な伝道の機会であり、大変感謝されています。患者を見舞うという事はとても大事な事で、その接し方の対話や、礼儀については重要な心得が要求されます。そのため、専門家の講習会もあります。失礼な見舞いは逆効果です。失敗は許されません。

又、ハワイには、年長者のためのいろんな施設があります。一人で生活するのが困難な方々が共同生活される施設です。私共はそのような施設を訪問して法座をもちます。このような施設では、一定の宗教だけでなく、どの宗教にも平等に伝道の機会が与えられていますので、一ヶ月に一回の機会はその順番が廻ってきます。宗教の講座に出席するのは個人の自由です。施設の数が多いので、一ヶ月一回でも、多くの回数になり、常に学習を必要とします。

私はこの法座で、まじめなおばあちゃんから次のような質問を受けました。「私はこの年齢になるまでお寺参りをしませんでした。ですからこの施設での礼拝には、いつも努力して出席していますが、説教してくださいる先生方が、どなたも異なつた話や、作法をされるので、聞けば聞くほど仏教がわからなくなってしまうました。仏教の重要な点はどのような事なのでしょうか。」と。

私は、このおばあちゃんの真剣な質問と、困惑の顔に強く心を動かされ、誠意をもって回答すべき責任を感じた事でした。

大変難解な経典を読み、専門的に勉強した人々によって使用されている宗教的な言葉を用い、普通の生活をしながら、仏法を宣布しようとしている私の姿勢を反省し、このおばあちゃんの質問こそ、今日の信徒の思いを代表しているものと思いつつ、やさしい表現で注意深く説明して納得していただいた事でした。

今日ハワイにはいろんな宗教、宗派があつて、多くの人々は、その宣伝を聞きながら、どの宗教が真実であるかを知るのに苦悩しているようです。幸いにして、親鸞聖人の著書が英訳され、多くの人々が直接聖人の宗教的生命にふれる事が出来る喜びに恵まれてる事は有り難い極みであります。私は全員聞法、全員伝道の決意を新たに、念仏者が心一つにして精進すべき事を痛感しています。

私は七月一日より、ハワイ日系人連合協会会長に就任し、七月末日を以って七年半以上勤めさせていただきましたハワイ別院の輪番を辞任し、後進に道を開き、八月一日より、アイエア本願寺駐在開教使として勤務致す事に決定しました。輪番の時と同じように多忙な日々が予想されますが、精進致したく、その覚悟を新たにしています。



自然(じねん・しぜん)

経子◇おはようございます。

住職◆あ、今朝は早いですね。

経子◇夜明けが早いから、起きるのも自然に早くなります。

住職◆なるほど、自然体ですか。

経子◇その「自然」で気が付いたのですが、『正信偈』に、「自然即時入必定」とあって「じねん そくじ に ゆう ひつじょう」と読みますね。「しぜん そくじ に ゆう ひつてい」ではだめですか。

住職◆『正信偈』は親鸞聖人が書かれた文で、ふりがなを付けていられる。そのふりがなどおり読むのですよ。

経子◇なぜ、「自然」を「じねん」と読ませるのでしょう。

住職◆これは、仏教の読み方で、お経の言葉を使うから発音もお経に合わせているのです。お経はだいたい「呉音」で読む慣わしですので「じねん」といいますね。

経子◇「呉音」ってなんですか。

住職◆漢字の読みは、中国の時代や土地により発音も違うことがあるのです。「呉音」「漢音」「宋音」など。

経子◇ひとつに決めればいいのか。

住職◆使い方によって、読みは変

わりますよ。

経子◇面倒ですね。

住職◆それが文化ですよ。次の字は何と読みますか。「一日」

経子◇「いちにち」でしょう。

住職◆正解。しかし、「いちにち」「いっぴ」「ひとひ」「いちじつ」「ついたち」も正解です。

経子◇まあ、そうですね。

住職◆「男女」を「だんじょ」は漢音、「なんによ」は呉音、「平等」を「へいとう」は漢音、「びょうどう」は呉音といえます。

経子◇では、呉音で読むのは仏教に縁が深い言葉と思えばいいのですか。

住職◆ほぼその通りですが、お経でも呉音読みの中に漢音読みが混じったりします。長い歴史文化の中で使い慣わしてきた言葉を大事にしたものです。

経子◇このごろ漢字テストが人気で難しい読みの問題がありますよ。

住職◆ほう。

経子◇「子規」(ほととぎす)「蜥蜴」(とかげ)「躑躅」(つづじ)「玉蜀黍」(とうもろこし)「蜻蛉」(とんぼ)「悪阻」(つわり)ね。

住職◆うーん。これは漢字の二文字以上の熟語を訓読みしています。「一日」(ついたち「月のはじめ月立ち」と同じですよ。テストというよりクイズですね。お経にはこのようなことはありません。

経子◇でも、お経は読みづらいですよ。

住職◆読み方は慣れていけば、また使っていけば、それこそ自然に身につけてきます。「正月」を「せいげつ」と読まず、呉音で「しょうがつ」と読むのが常識でしょう。ただ、仏教には難しい文字があります。インドのサンスクリット(梵字)を音訳したもので、漢字の意味には関係なく、発音を中心にしたことばです。

経子◇『正信偈』にありますか。

住職◆出ている順に見ましよう。「南無」「仏」「菩薩」「劫」「涅槃」「弥陀」「分陀利華」「印度」「釈迦」「楞迦」「修多羅」「韋提」などです。

経子◇おもしろそうですね。

住職◆寺の法座の時に話題にしてお話ししましょう。

経子◇楽しみにします。ありがとうございました。

住職◆楽しんでください。

# 蓮通信

## ■大谷光照前門主様ご逝去

本願寺第二十三代門主の大谷光照様におかれましては、去る六月十四日、午後一時十六分、京都市内の病院にてご逝去されました。密葬にあたる「荼毘式」(だびしき)、引き続き門信徒がお別れを告げる「御暇乞勤行」(おいとまごいごんぎよう)は六月十七日に営まれました。

二十二代門主、光瑞師の弟、光明師のご長男としてお生まれになり、昭和天皇のいとこにあられます。十五歳で法灯継承、第二十三代本願寺門主に就任されました。享年九十歳。

ご葬儀は七月十八日(木) 本山にてとり行われます。

## ■孟蘭盆会

お盆がまいります。七月十三日より十六日が「孟蘭盆会」(うらぼんえ) 通称お盆となります。

浄土真宗では、精霊棚を設けてなすの牛や、キュウリの馬を供えたりすることはありません。

浄土真宗のお念仏の働きによって成仏されたご先祖様は阿弥陀如来様と等しい仏様となり、常に私たちに寄り添って下さっています。

お念仏のいわれをお説き下さった阿弥陀様に御礼申させていたたくのがお盆の意義と申せましょう。

## お仏具を考える

### ◆供筥(くげ)・高杯(たかつき)◆

おもりのものを置く台です。果実や餅菓子などをおそなえするお仏具です。六角形のものには供筥(くげ)又は華束(けそく)、と申します。八角形もあります。唐草の彩色をほどこすこともありま。正式なおもりのもの台です。ご本堂の荘厳には必ず置かれているものを小さくしたものです。

これを略して、おもりのものを置きやすくした物が高杯です。用途は供筥と全く同じです。

おそなえされたお菓子や果実はそなえつばなしにしない様にしましょう。おそなえは和、洋を問いません。おいしい物を仏様におそなえしたら、おいしい内に皆様でいただきます。

仏様のおさがりをいただきますよ、といった習慣は大切な心を育てる教育であると考えられています。



と私共は考えております。「いただきます」という言葉も忘れずに。大変美しい日本語ではありませんか。

## 日常に使う仏教語

### ■長広舌・正念・不退転

ちようこうぜつ しょうねん ふたいてん  
駅前広場で党首が声をからし、力をこめ、長広舌をふるいます。「いまや、まさに政局は正念場を迎え、わが党は一致団結、不退転の決意をもってこの難局を乗り越えようとしております……」

長広舌—お釈迦さまのお姿には、三十二相と呼ばれる尊い相があるといわれ、仏像に表現されますが、そのひとつに長広舌相(長くて広い舌)というのがあります。仏法が世界中に説き広まることを姿のうち象徴しています。

正念—演劇でここぞと言う場面を正念場といいますが、正念とは仏教の八正道にある正念(正しい思い)です。浄土真宗でいえば、正しいお念仏、阿弥陀さまからいただく一心正念であります。

不退転—「もう、後戻りしない」位を不退転地といい、阿弥陀さまのご本願を信じる者は、迷いの世界に後戻りせず、必ず悟りの世界が約束されます。不退転の地位を歓喜地、正定聚とも喜ぶのです。